



北海道真駒内養護学校

令和2年度 実践研究まとめ

【研究主題】

2 年目 / 2 力年計画

根拠のある**学習評価**を目指して

～日々の授業と教育課程の改善をつなげるための仕組みをつくる～

●キーワード

記録の累積、複数で評価→自信を持って評価できる。
(根拠、妥当性)

P D C A

※学習評価を行うことで→サイクルを機能させる。
(カリキュラムマネジメントの充実)

【各教科の授業実践・授業改善】

★教科グループ・・・小一中高の串ざしグループ

音楽

図画工作・美術

体育

生活・理科・社会

国語

算数・数学

単元計画の作成



授業実践



学習評価

指導の評価



次の単元へ

単元計画
様式



★別グループ

訪問、寄宿舍、食育、自立活動教諭
合わせた指導の内容の整理

【各教科の授業実践・授業改善】

(1) 児童生徒の評価 (学習評価)

※児童生徒の成長

(2) 指導の工夫に対する 評価 (指導の評価)

※授業者の評価

単元計画
様式

単元計画の作成



授業実践



学習評価

指導の評価



次の単元へ

教科学習における

【単元計画】

単元計画の評価にかかわる項目

●評価

(1) 児童生徒の評価

※ 3 観点による評価

評価規準の
設定

◎、○で評価。

△の場合は直ちに
指導改善。

※ 個別の指導の手立て・配慮事項

(2) 指導の工夫に対する評価

思考力・判断力・
表現力等

※ 授業作りの
5つの視点

※ 授業者支援会議

単元計画
様式

【学校教育目標】

資質・能力の3観点より

「未知の状況に対応する

思考力、判断力、表現力」に焦点

「自分の考えを持ち、自分の考えを伝え、自分の
考えをもとに行動できる人を育てる」

指導の工夫に対する評価

身につけるために

思考力・判断力・表現力に焦点を当てる。

授業作りの5つの視点

どんな工夫が必要か。

どんな配慮が必要か。

「物理的環境支援」 「補助的手段」 「人的支援のあり方」
「学習機会の在り方」 「多様な評価」

→授業作りにおける真駒内のスタンダードに！

<単元計画（様式）作成スケジュール>

①教務部と連携し、単元計画（案）を作成



②各教科の研究グループに使用してもらい、意見集約



③教務部と連携しながら、修正



④全校に提案（教務部） ⇒ 12 / 8



⑤次年度から使用

【単元指導計画】※年度初めに仮に作成した様式

教科名		学部		部	学年		年
グループ ／教育課程		指導時期		月	指導コマ数		コマ
単元・題材名					学習指導要領との関連		
教育課程	自活中心 I II III						
人 数	一部の教科を学習している児童生徒						
児童生徒名							
指導者数							
育てたい力「生きる力の五要素」 ※重視する力を網かけ							
きめる力	見る聞く感じる力	伝える力	つながる力	やる気元気			

●単元のねらい及び評価規準

授業前に作成

知的小3段階～知的中2段階の各段階に応じて設定

学習指導要領参照

単 元 （ 題 材 ） の ね ら い

	Ⅱ	Ⅲ
知識・技能	学習指導要領 目標及び内容より 記載	
思考力・判断力・ 表現力		
主体的に学習に取り組む態度		

単 元 （ 題 材 ） の 評 価 規 準

		Ⅲ
知識・技能	単元のねらいの文末を 「～している」の表記に する。 ※資料「特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料」 文書→令和2年度→研究部	
思考力・判断力・ 表現力		内容のまとまりごと の評価規準
主体的に学習に取り組む態度		

時 数	日 時	指 導 内 容	知	思	主
1	月 日	単元のねらいを達成するために どんな指導をするのか、具体的に記載する。	できるだけ詳細に。		
2	月 日				
3	月 日				
4	月 日				

●授業の工夫に対する評価

単元中もしくは単元後に記載
授業改善に役立たせる

◎良い

○おおむね良い

△指導改善を要する

授業評価の視点	内 容		評価	課題と改善策	
物理的環境支援					
補助的手段					
人的支援					
学習機会					
多様な評価					
次年度に向けて	単元・題材	よい・変更が必要	時数	よい・変更が必要→（ ）	

●授業づくりの5つの視点の定義 及び 具体例
→ 真駒内養護学校手引き 資料12 及び 別紙参照

○学部○○(Ⅱ)

教育課程

単元後に記載

◎もしくは○

◎十分達成している

○おおむね達成している

単元・題材名		単元の評価規準		生徒A	生徒B	生徒C	生徒D
○○○○	知						
	思						
	主						
個別の有効な手立て・配慮事項	物理的環境支援						
	補助的支援						
	人的支援						
	学習機会						
	多様な評価						

個別の評価
記述欄

※単元後に
記載

※必要がな
ければ書か
なくて良い。

△：「ねらいに到達しなかつた
ので改善が必要」

※単元後の評価で
△になることはない。

◎○だ
け書く。

項立てしない
→大きな枠で書けるようにする。

単元中もしくは単元後に記載

単元計画の記入例

【単元指導計画】（記入例）

教科名	理科	学部	中学	部	学年	2	年
グループ／教育課程	ⅡⅢ	指導時期	10	月	指導コマ数	4	コマ
単元・題材名	ものの仕組みと働き・磁石の力			学習指導要領との関連		＜知小・生活＞ ものの仕組みと働き	
教育課程	自活中心	Ⅰ			Ⅱ		Ⅲ
人 数	—	—			3		1
児童生徒名	—	—			A・B・C		D
指導者数	—	—			1		1
育てたい力「生きる力の五要素」 ※重視する力を網かけ							
きめる力	<u>見る聞く感じる力</u>		<u>伝える力</u>		つながる力		やる気元気

●単元のねらい及び評価規準（記入例）

単 元 （ 題 材 ） の ね ら い		
	Ⅱ	Ⅲ
知識・技能	・身近にあるものの仕組みや働きについて知る。	・ものの仕組みや働きに関して関心を持って調べる。
思考力・判断力・表現力	・身近にあるものの仕組みや働きが分かり、それらを表現しようとする。	・日常生活の中で、ものの仕組みや働きに関して関心を持って調べる。
主体的に学習に取り組む態度	・身近な生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、自分のことに取り組もうとしたり、生活に生かそうとしたりする。	・日常生活の中で、ものの仕組みなどにかかわる学習活動を通して、自分のことに取り組んだり、生活を豊かにしようとしたりする。

単 元 （ 題 材 ） の 評 価 規 準		
	Ⅱ	Ⅲ
知識・技能	・身近にあるものの仕組みや働きについて知っている。	・ものの仕組みや働きに関して関心を持って調べている。
思考力・判断力・表現力	・身近にあるものの仕組みや働きが分かり、それらを表現しようとしている。	・日常生活の中で、ものの仕組みや働きに関して関心を持って調べている。
主体的に学習に取り組む態度	・身近な生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、自分のことに取り組もうとしたり、生活に生かそうとしたりしている。	・日常生活の中で、ものの仕組みなどにかかわる学習活動を通して、自分のことに取り組んだり、生活を豊かにしようとしたりしている。

●単元の構成（記入例）

○重点的に取り扱う

時 数	日 時	指 導 内 容	知	思	主
1	月 日	・教室内にある磁石を探す。 ・磁石で鉄を集めるゲームを行う。 ・磁石につくもの（鉄）、つかないものを分類する。 ・校内を散策し、磁石につくものを探す。	○		○
2	月 日	・2つの磁石の間に働く力を実験で確かめる。 →「引きつけ合う」「退け合う」力を確かめる。 ・予想と結果をまとめる。 ・磁石の力で動くおもちゃを動かす。どのように動くか考える。	○	○	
3	月 日	・自作の磁石（極が不明）の極が、N極かS極かを確かめる。 →既習事項より結果を予想し、実験で確かめる。 ・予想と結果をまとめる。		○	○
4	月 日	・まとめノートで学習したことを整理する。 ・磁石で使った便利な物ものを探す。 ・磁石を使った掲示物を作成する。	○		○

●児童生徒の評価
＜個別の評価＞・・・（別紙に記入）

題材・生徒観

大切にしたこと

- ・身近な磁石に触れる。
- ・「なぜ?」「どうして?」を考える。
- ・磁石の便利さを知る。
- ・身の回りの物、日常生活との結びつきを大切にする。

●授業の工夫に対する評価（記入例）

◎良い

○おおむね良い

△指導改善を要する

授業評価の視点	内 容		評価	課題と改善策	
物理的環境支援	・長机を使用。 ・お互いの活動が見える配置にする。		○	・活動によって個別の机が必要。	
補助的手段	・スケジュールの提示（基本的な流れを固定）。 ・思考の際のヒント（キーワード）の提示 ・磁石を10cm程度の棒につけ、持ち手を握りやすくした教材を使用。		◎ ◎ ○	・棒の長さを20センチにする。 ※広範囲に磁石を動かせる。	
人的支援	・磁石の操作で支援が必要なときは教師に声をかけるように伝える。 ・一人で取り組める生徒は、結果のまとめプリントに記載後、声をかけるように指示した。 ・キーボードを絞る。（言葉がけ）		△ ◎ ◎	・必要に応じて、操作が難しい生徒の支援を行う。	
学習機会	・自分で磁石を操作して実験する時間を十分に設定する。 ・準備や片付け、あいさつ、返事の係等を決め、活動場面を与えることで、学習活動を引き出せる生徒がいる。		△ ◎	・教師の演示を見る時間と自由に実験できる時間に分ける。 ※楽しい活動として、自由に実験できる時間を設定する。	
多様な評価	・実験の予想、結果を発表し合う場面を設ける。 ・代表生徒の演示をお互いに見て、賞賛する場面をつくる。		○ ◎	・発表の際は、ヒントとなるカードを選択できるようにする。	
次年度に向けて	単元・題材	よい・変更が必要		時数	よい・変更が必要→（ ）

●授業づくりの5つの視点の定義 及び 具体例

→ 真駒内養護学校手引き 資料12 及び 別紙参照

児童生徒の評価（Ⅱ）（記入例）

◎十分達成している

○おおむね達成している

単元・題材名		単元の評価規準	生徒A		生徒B		生徒C		生徒D	
磁石の力	知	・身近にあるものの仕組みや働きについて知っている。	○	・教室内にある磁石を探し集めることができた。 2つの磁石を操作し、力が働いていることに気付いた。	○		○			
	思	・身近にあるものの仕組みや働きが分かり、それらを表現しようとしている。	○	・おもちゃの動きを見て、「くつつく」「はなれる」のキーワードで、磁石の力を予想したり、結果をまとめたりすることができる。	○		◎			
	主	・身近な生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、自分のことに取り組もうとしたり、生活に生かそうとしたりする。	○	・学習したことをまとめ、掲示物で紹介した。その際、磁石を活用し、掲示する方法を友達と話し合い、作成することができた。	◎		○			

児童生徒の評価（Ⅱ）（記入例）

単元・題材名		単元の評価規準	生徒A	生徒B	生徒C	生徒D
個別の有効な手立て・配慮事項	物理的環境支援		・長机を使用する。	・実際に必要な物のみ机上に提示する。 ・長机を使用する。	・一人で実験する際に、体が真っ直ぐになっているか確認する。 ・個別の工房いす及び机を使用。	
	補助的支援		・N・Sカードを正確に読めているか確認しながら使用する。 ・「くつつく」「はなれる」などの文字カードを使用する。	・スケジュール表を提示し、学習に見通しを持たせる。	・磁石のついた棒（20センチ）教材の持ち手を直系3センチ程度にする。	
	人的支援		・教師の演示の際は注目するように促す。	・活動時間を回数や量で伝える。	・教師に依頼する場面を決め、依頼があってから支援するようにする。 ・必要に応じて、肘を支える。	
	学習機会		・友達の活動の手伝いをする事で、学習意欲が高まる。	・教師の演示を見る時間と自由に実験できる時間に分ける。 ・準備や片付けなど、教師の手伝いをする事で学習への意欲が高まる。	・思考する場面においては、自分で操作するより、教師の演示を見る時間を大切にしたい。	
	多様な評価		・実験の際、予想や結果をカード選択することで発表した。	・実験の際、予想や結果をカード選択することで発表した。	・予想と結果が異なった部分を発表する場面を設けた。	

児童生徒の評価（Ⅲ）（記入例）

◎十分達成している

○おおむね達成している

単元・題材名		単元の評価規準	生徒D	生徒		生徒		生徒	
磁石の力	知	・身近にあるものの仕組みや働きに関して関心をもって調べている。	○	・自ら実験を行い、2つの磁石の間に働く力をカードで分類することができた。					
	思	・日常生活の中で、ものの仕組みや働きに関して関心をもって調べている。	○	・極の不明な磁石にN極やS極を近づけることで、磁石の極を予想し、発表することができた。					
	主	・日常生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、自分のことに取り組んだり、生活を豊かにしようとしていたりしている。	○	・実験の順番を理解し、自ら道具を準備し、磁石を近づけることで、結果を整理することができた。（キーワードから選択）					

児童生徒の評価（Ⅲ）（記入例）

単元・題材名		単元の評価規準	生徒D	生徒	生徒	生徒
個別の有効な手立て・配慮事項	物理的環境支援		・移動を伴わない学習では、立位保持装置を使用する。			
	補助的支援		・文字カードを使い、キーワードを確認する。			
	人的支援		・できるだけ一人で取り組み、予想や結果を自分で表にまとめた後、教師に報告するように促す。			
	学習機会		・必要な器具を伝え、自分で準備する機会を設ける。 ・モデル提示（器具の操作の仕方）を生徒の前で行う。			
	多様な評価		・キーワードを組み合わせて、発表したり、学習したことを整理したりした。			

<単元計画（様式）作成スケジュール>

①教務部と連携し、単元計画（案）を作成



②各教科の研究グループに使用してもらい、意見集約



③教務部と連携しながら、修正



④全校に提案（教務部） ⇒ 12 / 8



⑤次年度から使用

意見①

意見①

グループからの意見をまとめると下記の6点が改善の柱だと考えます。

【共通項目】 ★ ・ ・ ・ ・ 大きく6点

★ 1 ・ ・ ・ 教育課程ごとに作成した方が書きやすい。

教育課程ごとに作成
※状況に応じて教育課程ⅡⅢを合わせた様式でもよい。

★ 2 ・ ・ ・ 「ねらい」は表記せず、評価規準だけの表記はどうか？

ねらいと評価規準は並べて
表記したい

★ 3 ・ ・ ・ 評価規準が具体的な方が評価しやすい。⇒評価規準の立て方に不安がある。

研修が必要。まずは「内容のまとめりごとの評価規準」を確実に作成。

★ 4 ・ ・ ・ 単元構成の内容の充実。

単元構成の内容は詳しく。

★ 5 ・ ・ ・ 授業の工夫の工夫に対する評価を教科ごとに整理すると良い。→真駒内スタンダード

※一度作ればベースができる

今年度作成したものを活用できるようにする。枠は検討。

★ 6 ・ ・ ・ 作業量が多い。全単元は負担。

一度作成することで負担が減る。評価規準の立て方を研修することで負担減を目指す。

各教科グループのまとめ

<国語グループ>

教育課程小Ⅰ 高等部2年 「北海道の昔話」

授業者から

◎思考力・判断力・表現力に関わるねらい

- ・絵本（映像）を見て、知っている出来事などを、指差しなどで表現することができる。

◎検討のオーダー

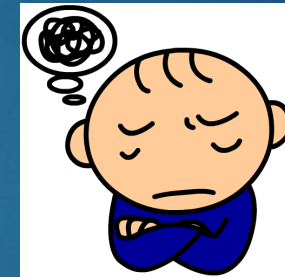
- ・絵本（本授業では映像での提示）の振り返りの場面で、児童生徒にどのように表現をさせたら良いか。

授業の工夫に対する評価（授業づくりの5つの視点）

△ポイント【学習機会】

- ・他の生徒が発表する間の、生徒の活動や注目のさせ方
- ・発声や発語する場面の設定の仕方
- ・自分で操作する場面をつくることで、自分からやってみようとする。→○

振り返りの場面で、児童生徒にどのように表現をさせたら良いか



・どうも、振り返りの仕方（選択場面）だけの課題ではないようである。

授業の工夫に対する評価（授業づくりの5つの視点）

【物理的環境支援】→◎

○生徒が集中できる環境づくり

- ・外が気にならないようにのれん
- ・生徒同士の配置
- ・机の足におもりをかぶせて動かさないよう

【物理的環境支援】

◎絵本（映像）の視聴させかた

○物語の長さ、話の把握させかたの配慮

- ・注目してほしい場面で、ストップ
- ・話を短くまとめる（ダイジェスト版）
- ・サイン、カード、動きをつける

◎話の選択

- ・見通しが持てる（繰り返し、関心、長さ）

授業の工夫に対する評価（授業づくりの5つの視点）

【物理的環境支援】→◎

○生徒が集中できる環境づくり

- ・ 外が気にならないようにのれん
- ・ 生徒同士の配置
- ・ 机の足におもりをかぶせて動かさないよう

【人的支援】→○

- ・ 教材を提示する際は、活動の直前に必要なもののみを提示する。
- ・ 生徒の動きに合わせて効果音

【補助的手段】→◎

- ・ 活動の流れを固定しスケジュールに見通しを持ちやすくする。
- ・ 話の内容を振り返る際にイラストを個別に提示。
- ・ イラストの提示の際に生徒に合わせてラミネートをかけるなどの配慮。

【多様な評価】→○

- ・ イラストを選んで楽しかったことを発表する場面を設定し、学習を振り返る場面の設定。

【学習機会】

◎振り返りの行い方の工夫

- ・ 二択のカードからの選択
- ・ 気持ちの絵カードの選択
- ・ 話の視聴が終わって、選択の前に再度内容確認
- ・ 選択する手掛かりの提示
- ・ 答えた後に、正誤が生徒に伝わるように
- ・ イラストの選択は確実か（提示の場所 上下左右）

【人的支援】

◎教師側の実態把握、見取り

- ・ 選択しやすい内容（ストーリー×、物・人◎）
- ・ 話を視聴する時に、笑顔があった、声を出していたなどのリアクションを教師が評価する。
- ・ 飽きずに聞く時間などを教師が見取るなど

【補助的手段】

◎五感に訴える

- ・登場人物、重要なものをペープサートで別提示
- ・視覚の他、聴覚や触覚を刺激する。（水・葉っぱ）
- ・紙で提示する時は、四角だけでなく、形も大事に
- ・振り返りの選択教材は大きなものを提示する。

【多様な評価】

◎教師側のフィードバック

- ・話を視聴する時に、笑顔があった、声を出していたなどのリアクションを教師が、言葉にしたり、その場面を取り上げて生徒に確認する。
- ・飽きずに聞く時間などを教師が見取るなど

教育課程小 I 読み聞かせ、お話とその振り返りの内容

授業づくりの5つの視点	思考力・判断力・表現力に焦点を当てた授業の工夫
物理的環境支援	・ 集中できる環境、児童生徒の配置 ・ 話の選定（長さ、興味、見通し、注目ポイント）
補助的手段	・ 読み聞かせの活動のパターン ・ 重要な物、人を別提示して注目（ペープサートなど） ・ 重要な物の提示を五感に訴える ・ サイン、カード、動きの提示して注目
人的支援	・ 教材提示の方法、タイミング ・ 教師側の実態把握（集中できる時間、内容、選択場面） ・ 教師側が読み聞かせの様子を評価する。
学習機会	・ 教材を操作する場面 ・ 振り返り（選択場面、提示、正誤、手掛かり、選択の実態）
多様な評価	・ 視聴する場面の児童生徒の様子をフィードバック ・ 授業の楽しかった場面の振り返り

教育課程小皿 小学部4年 「へんとつくり」

授業者から

◎思考力・判断力・表現力に関わるねらい

- ・これまで習った漢字を思い出しながら、正しい「へん」と「つくり」の組み合わせを見つける。

◎検討のオーダー

- ・漢字に親しんだり、積極的に用いようとする学習方法にはどのようなものがありますか。

【漢字の知識について実態差がある3人の児童を想定】

授業の工夫に対する評価（授業づくりの5つの視点）

【物理的環境支援】

- ・「へん」と「つくり」をカードにして、色分けした教材
- ・操作しやすい厚めの素材、低いホワイトボード
- ・移動を伴う学習のため、車いすでの学習
- ・移動しやすい学習配置、通路などのゆとり

授業の工夫に対する評価（授業づくりの5つの視点）

△ポイント【学習機会】

- ・言語活動の機会を設け、考えを発表したり、そう思った理由を発表しようとする。
- ・わからない時に、他の児童にヒントを出す、サポートをする用に言葉掛け。→○

△ポイント

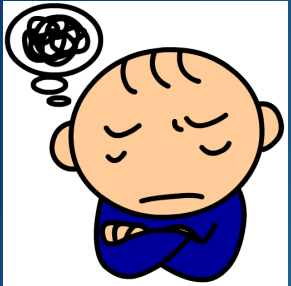
【補助的手段】

△3人の児童の知っている漢字に実態差 扱う漢字の調整

- ・意欲的に取り組めるように、クイズ形式にする。→◎

教育課程小 I 高等部 2 年
「北海道の昔話」

漢字に親しんだり、積極的に漢字を用いようとする活動の工夫【実態差】



課題

- ・ **実態差** →

どの児童にも、考えや理由を伝える

言語活動の機会の保障 ↓。得意な子が伝える機会多くなる。

授業の工夫に対する評価（授業づくりの5つの視点）

- ・ つぶやきをひろい、全体で共有できる言葉掛けや場面をつくる。

【多様な評価】

- ・ 全体で発表することで、友達から賞賛されたり、関わりを持ったりする。

検討の中で出た意見

【学習機会】

◎実態差に対する対応→クイズの出題の工夫

- ・ 一人に一つ「へんとつくり」に分けられた教材を用意して、個で試行錯誤し考える時間。その後交流
- ・ 辞典、教科書の活用
- ・ ヒントの出し方のルール、手本

【人的支援】

- ・ 誰がどの程度（何年生程度）漢字を書けるのか、実態を把握する。

【多様な評価】

◎出題（ゲーム、パズル、クイズ）の仕方を工夫し、互いに気付きを持ち相互評価につなげる。

- ・ 漢字をかるたにして、とって数を競う。
- ・ 「へん」と「つくり」を分ける活動をして、児童が出題者になる。
- ・ 問題を考える。

教育課程小Ⅲ 実態差がある複数の学習集団

授業づくりの5つの視点	思考力・判断力・表現力に焦点を当てた授業の工夫
物理的環境支援	・ 操作しやすい教材、交流しやすい学習配置の工夫。
補助的手段	・ 知っている内容（漢字）から扱い発展させていく。 ・ 一つ解決するごとに、一問追加するなど、問題数の調整
人的支援	・ 誰がどの程度（漢字）理解しているかの実態把握 を行う。 ・ 児童生徒のつぶやきを拾い、全体で共有できるようにする。
学習機会	・ 最初是个で考え試行錯誤させ、その後交流【実態差】 ・ 一人一人の 伝え合う言語活動が活性化させる 、クイズ、パズル、ゲーム出題の工夫 ・ 教科書、辞典の活用 ・ ヒントを出す時のルール、手本の提示 ・ 内容（漢字）に親しむ学習の工夫
多様な評価	・ 伝え合う言語活動に発展するクイズ、パズル、ゲームを出題し、 互いに気づきがあるよう出題の仕方工夫

まとめ

- ・ 国語の授業で、思考力・判断力・表現力を高めるために・・・

★児童生徒が題材に触れる時の様子について、教師がこれを取り上げて言葉にして、確認して伝えるフィードバック

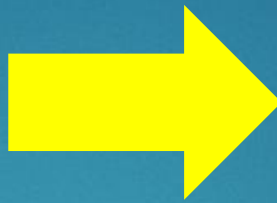
★複数で学習する場面で、伝え合う言語活動を保障するために、実態差を考慮した活動、出題の工夫

☆以上のことを授業で行うために、今までの学習状況や興味、集中できる時間、選択する力など実態を把握することも大切である。

<算数・数学グループ>

物理的環境支援

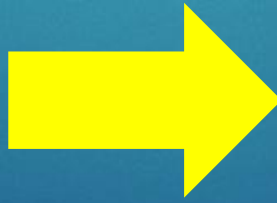
安全面や衛生面に配慮しながら学びやすい環境づくりをする。



落ち着いた環境を整えるため、パーティションで区切ったり、別室で学習したりする。する。

補助的手段

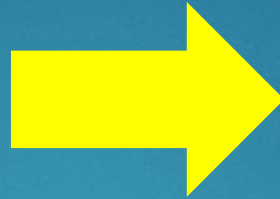
- デジタル教材によって、視覚、聴覚でとらえることで、数に関する興味を持ち、意欲をもって学習する。



音の数と数字のマッチングはできているので、具体物を用いてのマッチングを試みる。
見え方や右手の操作性の工夫をする。

人的支援

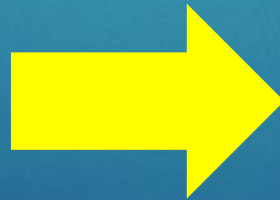
マンツーマンでの支援をすることで、**演示に注目させる。**
適切な言葉かけをすることで集中を持続させる。



マンツーマンで指導ができるので、**一人ずつ行わず、同時進行で学習する。**

学習機会

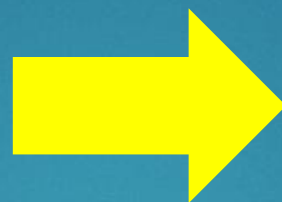
数や音に着目して、数のまとまりや数え方に気付かせ発表させる。



体験的な活動を通して、教科と日常生活をつながられるようにする。

多様な評価

個に応じて発表の仕方を工夫し、関心をもたせる。



生徒がお互いに褒め合う場面の設定をする。

生徒が失敗したときの教師の反応を考えておく。

その他

小中学部・高等部に共通して

児童生徒が安心して間違えることができる授業の雰囲気作りが大切である。

学習したことを日常生活の場面に生かせると良い。



<生活グループ>

KJ法にて討議

①ビデオ視聴 小1生単「楽しい秋いっぱい」

②普段の学習で工夫していること

<物理的環境支援>

- ・学習に合った姿勢の工夫
 - ・場面に応じた教材の出し入れ、服装
- ex.机上の整理、

外で活動する前の説明が終わってからジャンパーを着る（ファスナーや摩擦音が気にな

<補助的手段>

- ・視覚教材の工夫～テレビ・イラストのわかりやすさ
- ・自分の考えを伝える手段の確立
- ・地下鉄乗り方を調べる学習～必要な画像は生徒自身が見て選択
- ・学習場所の地図作り～実際の教室に行き、生徒自身が写真撮影

<人的支援>

- ・聴覚に障がいのある生徒～学年内で指文字を整理して関わる
- ・視覚に障がいのある生徒～わかるように、言葉を選びながら
- ・グルーピングのしかた～同じ基盤で話題が進められるかどうか

<学習機会>

- ・体験的な活動（校外学習の必要性）
- ・五感を使う活動を取り入れる
- ・繰り返し、学習を積み重ねる
- ・考える時間の確保
- ・実物の使用
- ・動画+具体物などリアルな学習内容の追求
- ・意欲を高める一生徒の興味・関心をひく教材
- ・日常でよく使うもの、目にするであろうものを題材とする
- ・学習内容の設定～今まで経験したことに合った活動になっているか
より生活場面を意識できるような題材設定になっているか

<多様な評価>

- ・実際に取り組んでいる様子などを画像や動画で振り返り、お互いに称賛できる場面設定

<社会グループ>

①授業に対する評価

ビデオ視聴 中2「南区の地図をつくろう」

②普段の授業づくりで工夫していること

KJ法で討議

思考力・判断力・表現力で分類

①授業に対する評価

ビデオを視聴して討議

中2「南区の地図をつくろう」

物理的環境支援

- ・工房いすの利用。
車いすだと動き回って集中力がなくなる（思）
- ・視覚的な支援、選択の際にわかりやすいように選択肢を分けたり、背景をかえたりする（判）

補助的手段

- ・作業工程に実際にやっている写真を掲示する（思）
- ・STに作業工程を演示してもらう（思）
- ・地図づくりと見下ろす写真＋航空写真、CCDカメラで下から撮る動画と実際に歩いてみた写真などと、視点を合わせる（判）
- ・生徒を一人、呼んで一緒に作る活動して、他の生徒に見せながら教える（表）
- ・手元で操作できる選択肢を提示する。取ったり貼ったりそれぞれの実態に合わせて行う（表）

人的支援

- ・ STが「おっ」と驚いたり、興味を持った発言をしたりする。大人の感動、興味を伝える（思）
- ・ STの役割として生徒の興味関心を引くようにする（思）
- ・ STがMTの話を拾って、もっと話を展開しても良い（思）
- ・ 生徒に注視する時間を与えてから選択できるようにする（判）

学習機会

- ・ 全員に○×カードを与えたり、選択して提示できる物を与えたりする。クイズ形式で楽しくできる（判）
- ・ 生徒の好きな動画を取り上げる（表）
- ・ 立体に地図を作っていく上で、何を作っているかがイメージしやすいように実際のものと作る物が近くなるような動画や写真を提示する。例えば、山を積み上げて作っているが「高さ」がわかるような写真や川では、「流れ」がわかるような写真を提示する（表）